



Corporate Profile

会社案内 2025





Topcon Positioning Systems
Training Center
Concordia, Italy

We are Topcon

私たちトプコンは、「医・食・住」に関する社会的課題を解決し、豊かな社会づくりに貢献します。

その中で私たちが目指すのは、「誰もが安心して暮らせる社会」です。そこでは、質の高い医療を受けられ、豊かで安定した食生活が保証され、安全な道路や建物が整備されています。

そんな社会の実現にむけて、健康状態の改善や業務の効率化、生産性向上を支える技術とデータ基盤を提供しています。



Healthcare

Agriculture

Infrastructure



トプコンのビジョン

私たちは、ものづくりの現場で培った技術に、自動化技術やデータドリブンなソフトウェアを組み合わせることで、新たな価値の創出に取り組んでいます。

また、多様性を尊重し、国際社会の一員として責任ある行動を大切にしています。お客様、取引先、地域社会など、すべてのステークホルダーからの信頼に応え続けるために、企業倫理と法令を遵守し、誠実な姿勢を基本に事業を推進しています。



尖ったDXで、世界を丸く。

私たちの革新的な技術は、慢性疾患の早期発見を可能にし、持続可能な農業の効率化で世界の食料需要に応えています。さらに、人々が安心して暮らせる強いまちづくりにも役立っています。

また、客観的なデータを活用し、よりの確な意思決定と業務の質の向上を図ることで、実効性のあるソリューションを提供し、社会的課題の解決につなげています。こうした取り組みを通じて、私たちは持続可能な未来の実現を支えています。

社会的課題への 挑戦と 持続可能な未来

私たちの住む世界は、人口の増加や自然災害、医療や食料の不足、そして暮らしを支えるインフラのあり方など、さまざまな課題を抱えています。



世界の現状 (Global Facts)



視覚障害：世界で少なくとも**22億人**が何らかの視覚障害を抱えています。

出典：WHO [World Report on Vision 2019]



食料不安：**7億人以上**が食料不安の影響を受けています。

出典：国連「世界の食料安全保障と栄養の現状(SOFI) 2024年版」



気候災害による損失：気候変動に起因する災害によって、インフラや建物の損失は年間**7,000億ドル**を超えています。

出典：Coalition for Disaster Resilient Infrastructure 2023

私たちは、世界が直面するこれらの課題に正面から向き合い、その解決に挑む産業を支えることで、人々の暮らしを豊かにすることを目指しています。

安心して暮らせる社会とは、すべての人が食料や教育、住まい、移動の自由といった基本的な生活のニーズを満たせる社会です。

しかし、人口の増加や災害の激甚化が進むなか、安定した食料供給と強靱なインフラの確保は、これまで以上に重要な課題となっています。

私たちは、革新的な技術とソリューションが、すべての人々の健康と幸福の実現に貢献できると信じています。

私たちは、独自の光学技術に機械・電気技術を融合させたオプトメカトロニクスを強みとし、測量機器や眼科用医療機器の分野を中心に、グローバルに事業を展開してきました。1994年には、「建設工事の工場化」という新しいコンセプトを生み出し、新規市場を創出することで潜在的な需要を掘り起こしました。

お客様の課題を解決するために不可欠な DXソリューションの提供を目指します

これを転機に、「医(ヘルスケア)・食(農業)・住(建設)」の産業界に変革をもたらすソリューションの創出を目指し、先進的な技術ベンチャー企業や販売会社との合併・買収を積極的に推進してきました。

トプコングループのお客様は、各分野で高い専門性をもつプロフェッショナルの方々です。

私たちは、その声に真摯に耳を傾け、何が最も重要な課題かを見極めることを大切にしています。お客様のニーズを理解し、先回りして応えることで、独自のDXソリューションを開発し、お客様のビジネスの成功と、より良い世界の実現を支援しています。これこそ私たちが目指す「TOPCON WAY」であり、企業としての理念と方針を体現するものです。

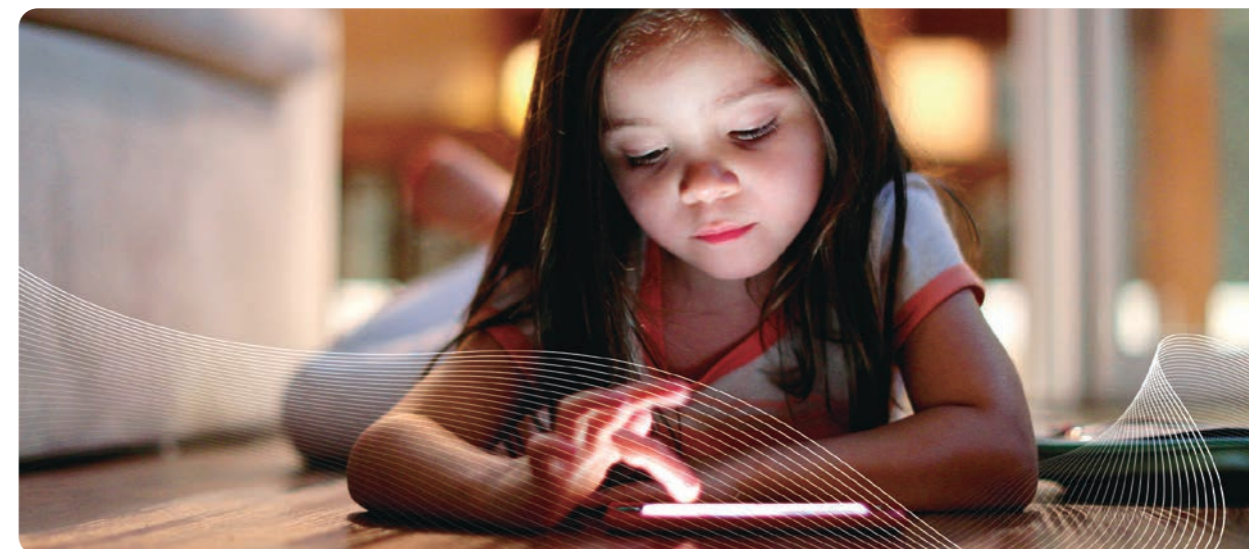
今後も私たちは、顧客指向の姿勢を貫きながら、持続可能な未来に向けたソリューションの追求と挑戦を続けていきます。そして、「尖ったDXで、世界を丸く。」というビジョンの実現に向けて歩み続けます。

代表取締役社長 兼 CEO
江藤 隆志

Healthcare

「目は心の窓」と言われますが、同時に「身体の窓」としても重要な役割を担っています。

目に負担の少ない非侵襲的な網膜画像診断によって、自覚症状が現れる前であっても様々な病気のサインと捉えることが可能と言われています。高齢化やライフスタイルの変化により、糖尿病や心疾患などの慢性疾患は世界的に増加しています。私たちは「Healthcare from the Eye™ (眼を通じた全身の健康管理)」を使命として、医療へのアクセスと質の向上を図りながら、医療全体のコスト削減を目指しています。



直面する課題

世界的な眼疾患の増加と、眼科医不足

現在、世界には白内障、加齢黄斑変性症、糖尿病網膜症、老眼、強度近視などの眼の病気や問題を抱える人が約22億人に達しています。

これらの慢性眼疾患は、自覚症状が現れたときには既に進行し、回復が難しいこともあるため、早期発見が極めて重要です。

平均寿命が延びる一方で、加齢に伴い眼の健康は衰えやすくなっています。世界には24万人以上の眼科医がいますが、特に発展途上国では医療機関へのアクセスが困難な場合も多いことから、診断や治療の遅れによる視力喪失が深刻な課題となっています。



課題解決へのアプローチ

革新的な眼疾患のスクリーニングによる早期発見の機会創出

世界には200万人を超える一般開業医がおり、眼鏡店や薬局も数多く存在します。

こうした医療・サービス提供者と連携することで、重症化のリスクを抱える人々を早期に特定し、適切な治療につなげることができます。



将来の展望と実現したい成果

Healthcare from the Eye™

「Healthcare from the Eye™」は、当社のフルオート撮影装置で取得した網膜画像を承認済みのAIアプリで解析することで、眼疾患に加え、さまざまな病気の兆候を早期に発見する取り組みです。

これらの診断結果は、安全なクラウドベースのプラットフォームを通じて医療従事者と共有され、医療の質を向上させながら、同時に医療全体のコスト削減にも貢献します。

Key Points

22億人

視覚障害を抱える人の数

出典：
WHO [World Report on Vision 2019]

24万人

世界の眼科医の数

出典：
Market Scope, LLC [2022 Ophthalmologist Diagnostic Equipment Market Report]



Agriculture

世界では、貧困や災害の影響により、11人に1人が飢餓に直面しています。

人口の増加や異常気象により、今後さらに作物の供給量や安定性が損なわれる恐れがあります。

私たちは、持続可能な食料供給を支えるために、農作物の収穫量や生産性の向上に取り組んでいます。



Key Points

103億人

2080年代半ばまでに
予測される世界人口の増加

出典：
国連「世界人口推計 (World Population
Prospects2024)」2024年版

7億3,300万人

飢餓に直面している世界の人々の数

出典：
国連「世界の食料安全保障と栄養の現状 (SOFI)」2024年版



直面する課題

高まる食料不足のリスクと作物収量の不安定化

現在、世界中で約7億3,300万人が飢餓に直面しています。地域別に見ると、アフリカで約3億人が、またアジアでも約3億8,500万人が飢餓状態にあります。

この問題をさらに複雑にしているのが、耕作可能な土地の不足と、現在80億人の世界人口が2080年代半ばには103億人に達すると見込まれている点です。

気候変動によって作物の収量が不安定になることで、増え続ける人口を養うという課題は一層深刻化しています。さらに、地政学的な不安定さが燃料や肥料の価格高騰を招き、食料安全保障への懸念をさらに高めています。国連が掲げる「2030年までに飢餓をゼロにする」という目標を実現するためには、小規模農業従事者の生産性と収入を2倍に引き上げる必要があります。



課題解決へのアプローチ

農作業の自動化による効率化

限られた農地で生産性を最大化することは、食料や家畜の安定供給を支えるうえで不可欠です。

その実現には、農家による精密な機械操作が重要な役割を果たします。

私たちは、作業のデジタル化と自動化、肥料の適切な管理、データ分析を通じて、収量・品質・効率の向上を支援しています。



将来の展望と成果

持続可能な農業で、すべての人に安定した食料を

マシンガイダンスや自動操舵といった精密位置情報ソリューションにより、農作業の時間を最大20%削減するとともに、CO₂排出量や土壌の踏圧を軽減することができます。

また、肥料・農薬・水の使用を適切に管理することで、環境負荷を軽減し、資源の効率的な利用および水資源の持続的な保全が可能になります。

私たちは、精密農業の自動化を通じて、農家が持続可能な方法で食料を生産できるよう支援するとともに、次世代のための環境保全にも貢献してまいります。

Infrastructure

世界的にインフラへの需要は高まり続けており、資金や熟練労働者の確保には依然として課題があります。

さらに、自然災害の激甚化・頻発化により、強靱なインフラの整備と維持がこれまで以上に求められています。

私たちは、建設工事の効率化と品質向上を通じて、持続可能で強固な社会基盤の構築を目指しています。



Key Points

69兆ドル

世界のインフラ需要に関わる金額

出典：
IHS Global Insight、ITF、GWI、各国統計、マッキンゼー・グローバル・インスティテュート分析

79%

世界の建設業者のうち、熟練労働者が不足していると回答した割合

出典：
International Construction Market Survey 2024



直面する課題

労働力不足の中で高まる、強靱なインフラへの需要

都市の再開発や老朽化した住宅、道路、橋梁の維持・補修に対する需要が世界各地で高まっています。さらに、近年の環境問題への対応として、災害に強いインフラの整備も求められています。2017年から2035年の間に、誰もが安心して暮らせる社会基盤を整備するには、総額69兆ドルの投資が必要とされています。しかし、増大するインフラ需要に見合う十分な建設投資を確保することは難しく、熟練労働者の不足も建設分野における深刻な課題となっています。



課題解決へのアプローチ

建設プロセスの自動化

世界的なインフラ需要と労働力不足に対応するには、建設の生産性向上が不可欠です。現在の建設作業は、熟練労働者の専門的な知識や経験に大きく依存しており、デジタル化や自動化の導入は遅れています。しかし、測量・設計・施工・検査の各工程をデジタル化・自動化することにより、労働力不足の緩和と生産性の向上が期待できます。私たちは、3D計測ソリューション、建設機械の自動化、クラウド型データ管理を通じ、建設現場の自動化を推進し、生産性と品質の向上を実現しています。



将来の展望と成果

効率性、安全性、経済性、そして持続可能性を備えた建設へ

建設現場の自動化は、インフラの維持管理を支え、災害に強い都市づくりを実現します。安定したインフラは、医療や教育、通勤の利便性を高め、人々の暮らしを支えるとともに、地域の経済成長を促進します。建設分野へのデジタル技術の導入により、建設機械の稼働時間を30%削減し、CO₂排出量の削減にも寄与しています。私たちは、環境にやさしい建設現場の自動化を通じて、より良い暮らしと持続可能な都市の実現を目指しています。

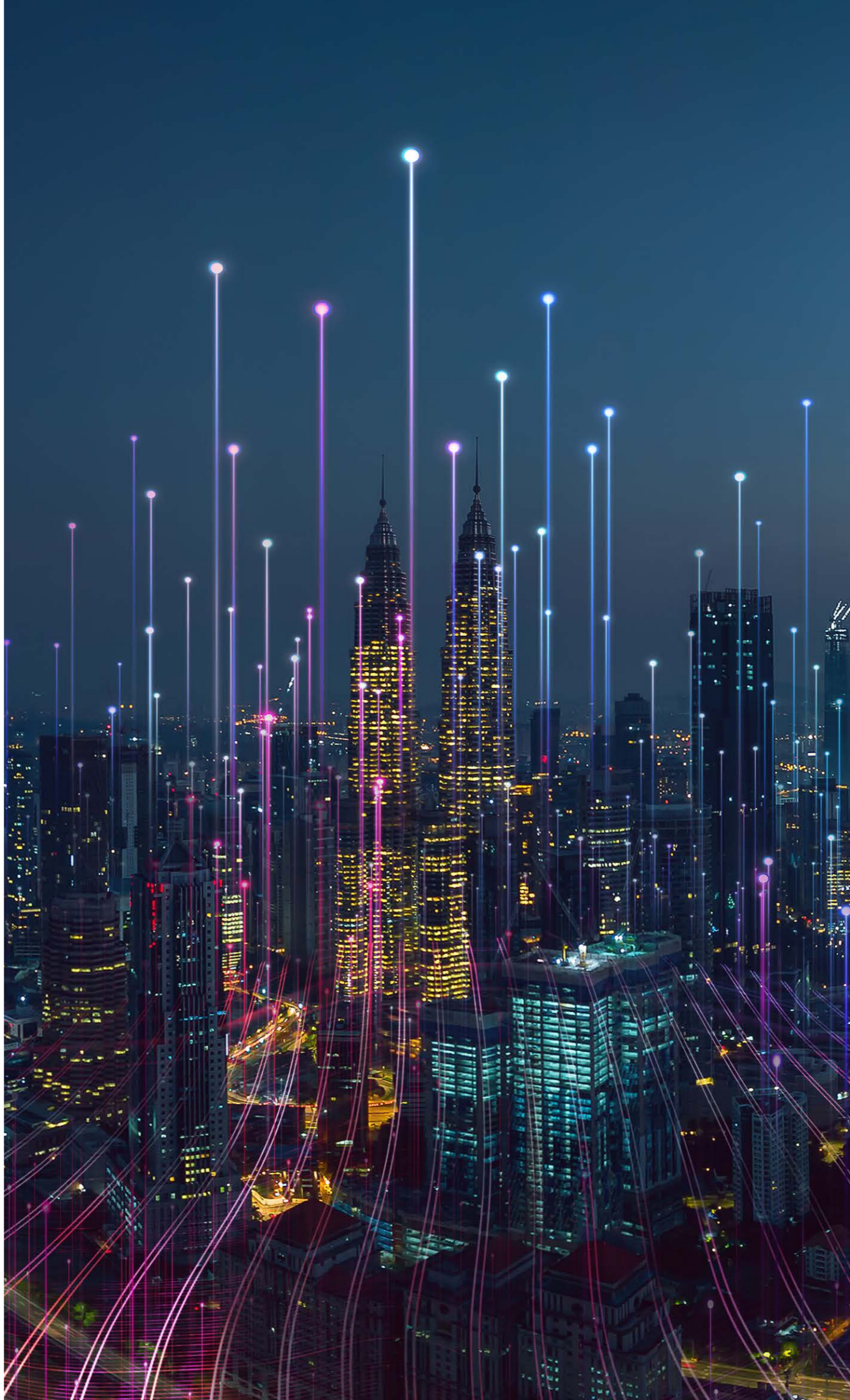
研究開発

創業以来、私たちトプコンの中核技術は光学技術とセンシング技術にあります。

私たちは、時代のニーズに応じて周辺技術や応用技術を積極的に取り入れながら、独自のコア技術を進化させてきました。

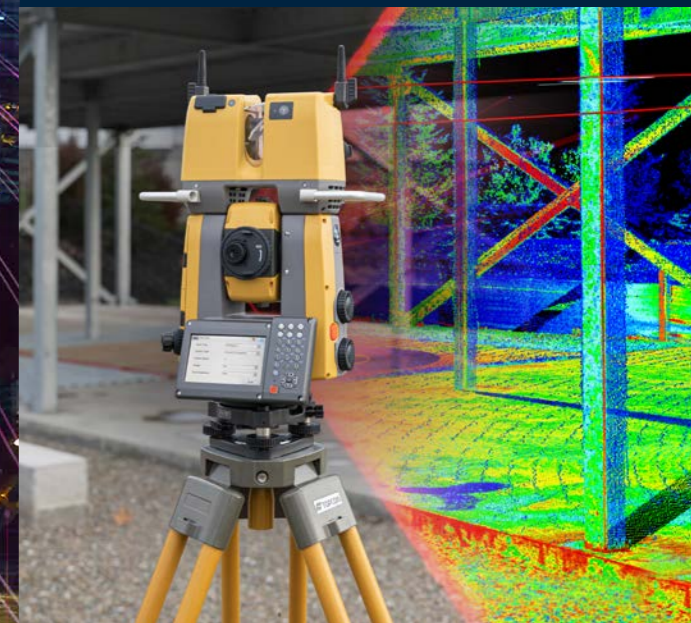
さらに、35社以上の技術系企業とのM&Aやアライアンスを通じて、最先端の技術を獲得し、これらを自社の技術に融合させることで、誰も想像しえなかったユニークな製品やソリューションを生み出してきました。こうした取り組みにより、潜在的な顧客ニーズの掘り起こしにより、グローバル市場の開拓を可能にしています。

また、研究開発にとどまらず、知的財産の強化や生産・製造技術の向上、技術マネジメント体制の構築にも注力し、将来の世界的ニーズに応えるソリューションの提供を進めています。



一步先を見据えたイノベーション

私たちは思考を止めない。
革新し続ける。
常に、一步先へ。





グローバルな視点

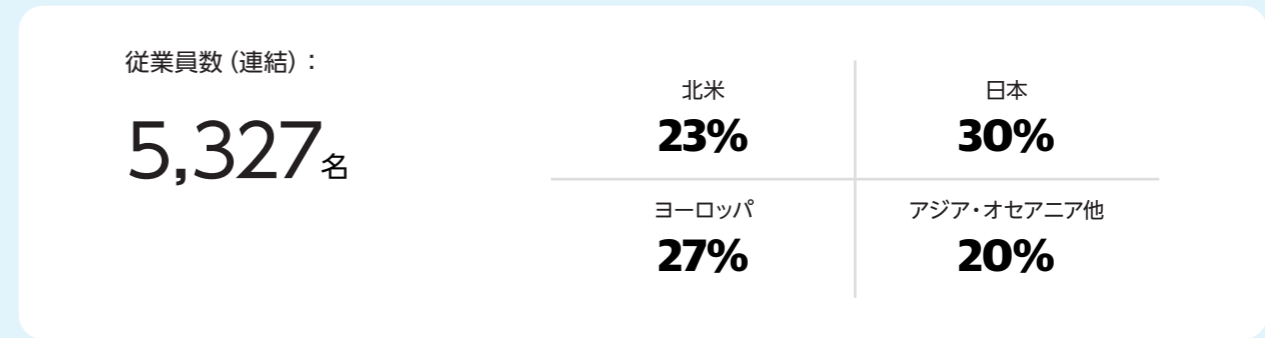
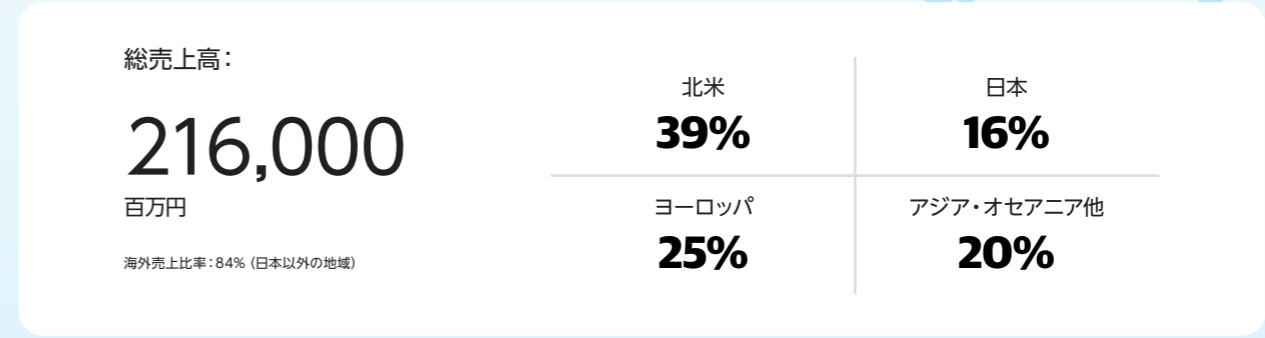
世界中の多様な仲間とともに、
「医・食・住」の分野における社会的課題を解決する



トプコングループは、世界各国の先進技術を有する企業を合併や買収によってグループに迎え入れ、既存技術と融合させることで新たな価値を創出し、事業を拡大してきました。

現在、私たちは世界約30の国と地域に生産・開発・販売拠点をもち、売上の80%以上を海外市場が占め、従業員も約70%が外国籍です。

私たちは、グローバルな知見と技術を活かし、世界中の多様な仲間と協力しながら、医・食・住に関わる社会的課題の解決に取り組んでいきます。



2025年3月末現在

サステナビリティ

私たちの取り組みは、2015年の国連サミットで採択された持続可能な開発目標 (SDGs) を補完・支援するものです。

私たちは、環境問題への取り組みを、経営の重要課題の一つと位置づけており、2021年には「環境ビジョン2030」を策定しました。

このビジョンは、以下の2つの課題に対応することを目的としています：

- 1) 製品を通じた環境負荷の低減
環境に配慮した製品・技術・開発を提供し、エネルギーや資源の効率的利用を通じて、持続可能な社会の実現に貢献しています。
- 2) 気候変動への対応
気候変動などのグローバルな環境課題に対し、企業として積極的に取り組んでいます。

また、製品開発や製造工程を含む企業活動から発生する廃棄物の大部分をリサイクルし、資源の有効活用を推進しています。

かけがえのない地球環境を守る、持続可能なソリューション

製造プロセスから日々の業務に至るまで、私たちは暮らしや働く地域社会が直面する環境・経済・社会的課題に対し、前向きで意義ある影響を与えることを常に目指してきました。

2001年以降、私たちは環境にやさしい製品の開発に取り組むとともに、生産・販売プロセスにおける環境配慮型製品の設計・改良に注力し、発生する廃棄物の効率的なリサイクルを推進しています。

また、地球環境の変化に対応するため、再生可能エネルギーの利用拡大にも努め、日本国内の事業活動における温室効果ガス排出量を、2013年度比で2030年度末までに40%削減することを目指しています。



QRコードをスキャンして、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) を探ってみましょう。
あなたの行動が、未来を変える一歩になります。

私たち一人ひとりの力を合わせて、すべての人にとってより持続可能な世界を築きましょう。

詳しくは：sdgs.un.org/goals

トプコンの 持続可能な開発目標 (SDGs)

ESG経営を実践するために、私たちは持続可能な開発目標に取り組む上で6つの「マテリアリティ (重要課題)」を特定し、2023年度よりこれらの目標に対する具体的な取り組みを開始しています。

技術革新による独創的な製品の提供

医・食・住の分野において、技術の高精度化を通じた最先端かつ独創的な製品の提供により、最適化と省力化の実現を通じて、社会的課題を解決し、人々の豊かな暮らしに貢献する。



DXソリューションの推進と加速

IoTとネットワーク技術を駆使したDXソリューションにより、生産性の向上と業務効率化を促進し、新規事業の創出や革新的なサービスの提供を推進する。



人権の尊重

自社のみならずサプライチェーンにおける人権への深い理解を通じて差別のない社会の実現に貢献する。



地域社会との共生

事業に関わる人々 (ビジネスパートナー) とともに、事業活動を通じて地域社会の課題解決と発展に努める。



地球環境への負荷低減

気候変動や水問題、資源循環への対応を促進し、ステークホルダーとともに社会全体の環境負荷低減に貢献し、持続可能な社会の実現を目指す。



個を尊重し共創する組織

多様な価値観を認め、すべての個人が互いに尊重し新たな価値を創造する組織文化を醸成する。



役員一覧

株式会社トプコン

取締役



代表取締役社長
江藤 隆志



取締役 エグゼクティブ・チェアマン
ディネシュ・パリワル



取締役
ジュリア・ヘラー



取締役
アリッサ・スー・リンチ



取締役
シュロミ・ナフマン



取締役
谷田川 英治

取締役 監査等委員



取締役 監査等委員会議長
日高 直輝



取締役 監査等委員
千種 滉紀



取締役 監査等委員
貫名 保宇

執行役員



CEO
江藤 隆志



専務執行役員
財務本部長
特需ビジネス推進部長
秋山 治彦



専務執行役員
経営推進本部長
伊藤 嘉邦



常務執行役員
総務・人事・法務本部長
(サステナビリティ推進担当役員)
渡邊 玲子



常務執行役員
アイケア事業本部長
瀧沢 英之



上席執行役員
ポジショニング・カンパニー長
(トプコンポジショニング
システムズ社長)
イヴァン・デ・フェデリコ



上席執行役員
トプコンアメリカコーポレーション社長
デイヴィッド・アラン・
マドリック



上席執行役員
スマートインフラ事業本部長
森田 哲也



上席執行役員
生産本部長
吉良 隆史



執行役員
アイケア事業本部長
荻野 滋洋



執行役員
トプコンポジショニングシステムズ社
エグゼクティブバイスプレジデント、
ポジショニングソリューションビジネス
ユニット ジェネラルマネージャー
マリー・ロッジ



執行役員
品質本部長
野島 和行



執行役員
アイケア事業本部長
岡田 浩昭

企業情報

資本金
16,891百万円*

売上高 (連結)
2,160億円*

設立
1932年 (昭和7年) 9月1日

従業員数 (連結)
5,327名*

グループ会社
65社 (海外58社) *

※2025年3月末現在



尖ったDXで、世界を丸く。



株式会社トプコン

〒174-8580 東京都板橋区蓮沼町75番1号

global.topcon.com